

みどり市都市計画マスタープラン策定業務

農地所有者意識調査結果

みどり市

目 次

第1章 調査の概要	1
調査目的	1
調査内容	1
調査方法	1
調査結果の見方	1
第2章 回答者の属性	2
1 あなた自身のことについて	2
(1) 年齢	2
(2) 居住地域	2
(3) 家族構成	2
(4) 農家形態	3
(5) 農家歴	3
(6) 農地の所有形態	3
(7) 所有農地の地域	4
(8) 自宅から農地までの距離	4
第3章 調査結果の分析	5
1 現在の農地の活用状況について	5
(1) 所有農地の面積	5
(2) 活用状況	6
(3) 耕作していない農地の面積	7
(4) 耕作している農作物について	8
(5) 農地を活用する中で困っていること	9
2 将来の農地の活用意向について	10
(1) 所有農地の面積	10
(A) 継続したい	11
(B) 離農したい	11
(C) わからない	11
(2) 後継者の有無	12
巻末資料	13

第1章 調査の概要

調査目的

都市計画マスタープランの改定にあたり、農地を所有している方の現在の農地の利用状況や今後の利用方針についての意見や意識を集約し、本市として取り組むべき課題を明らかにするため、令和3年12月に農地所有者意識調査を実施した。

調査内容

1 回答者の属性

年齢、居住地域、家族構成、農家形態、農家歴、農地の所有形態、所有農地の地域、農地までの距離

2 現在の農地の活用状況

所有している農地面積(耕作していない土地含む)や活用状況、農地を活用する中で困っていることについて

3 将来の農地の活用意向

農業の継続意向について

4 将来の農業経営

農業経営の後継者の有無について

調査方法

- | | |
|----------|-------------------------|
| (1) 調査地域 | みどり市全域 |
| (2) 調査対象 | 1,000人 |
| (3) 回答者数 | 501人 |
| (4) 回収率 | 50.1% (郵送48.5%、WEB1.6%) |
| (5) 調査方法 | 郵送、WEB |
| (6) 調査期間 | 令和3年12月6日 ~ 令和4年1月31日 |

調査結果の見方

1. 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数として、小数第2位を四捨五入して算出している。
2. 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。
3. 各回答項目の割合(%)は、単数処理の関係上(小数点以下切り捨て)、合計が100%にならない場合がある。
4. アンケート選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがある。
5. グラフ中の「n」(net)とは、その質問への回答者数を表す。

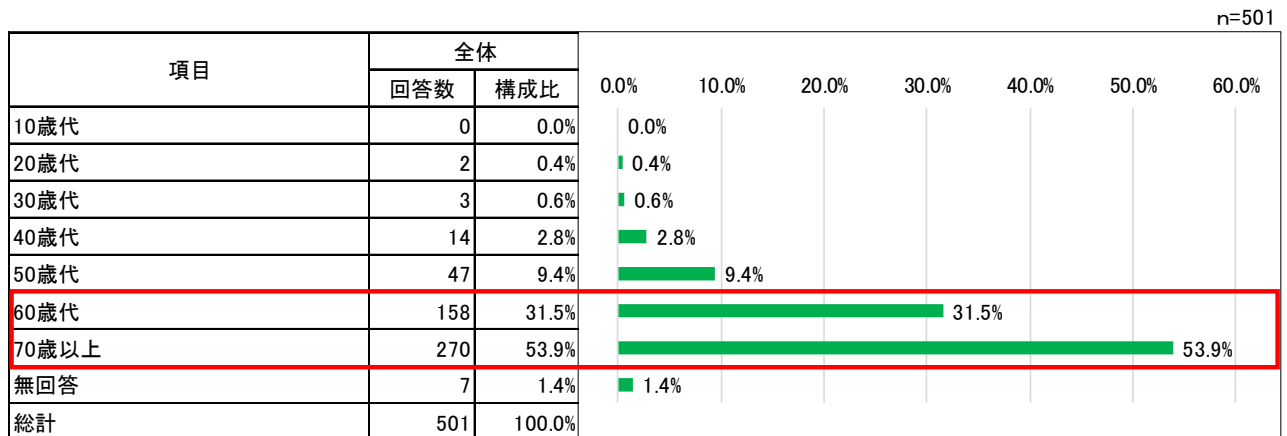
第2章 回答者の属性

1 あなた自身のことについて

問1 はじめに、あなたご自身のことについておたずねします。

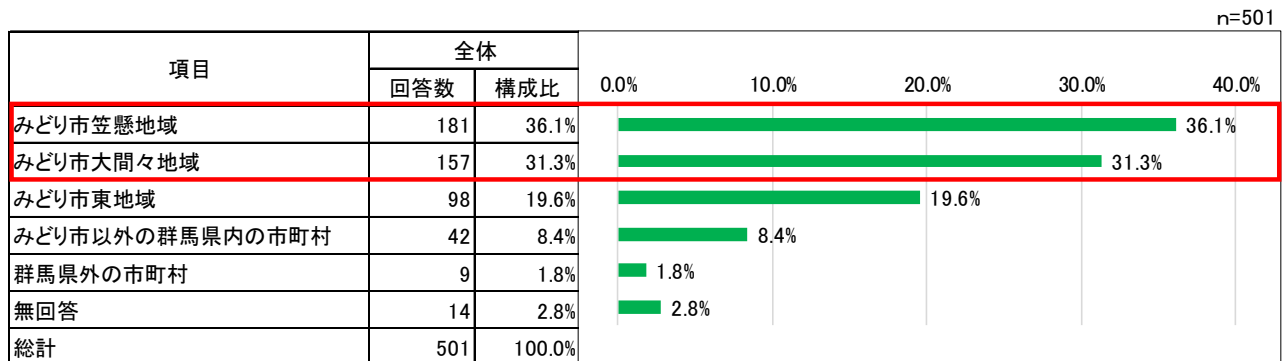
(1) 年齢

年齢は、70歳以上が53.9%と最も多く、次いで60歳代が31.5%である。



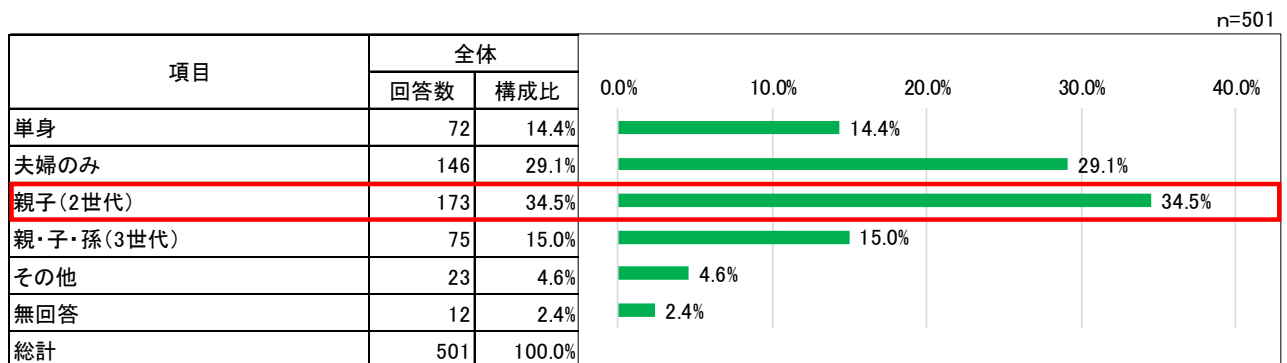
(2) 居住地域

居住地域は、笠懸地域が36.1%と最も多い。



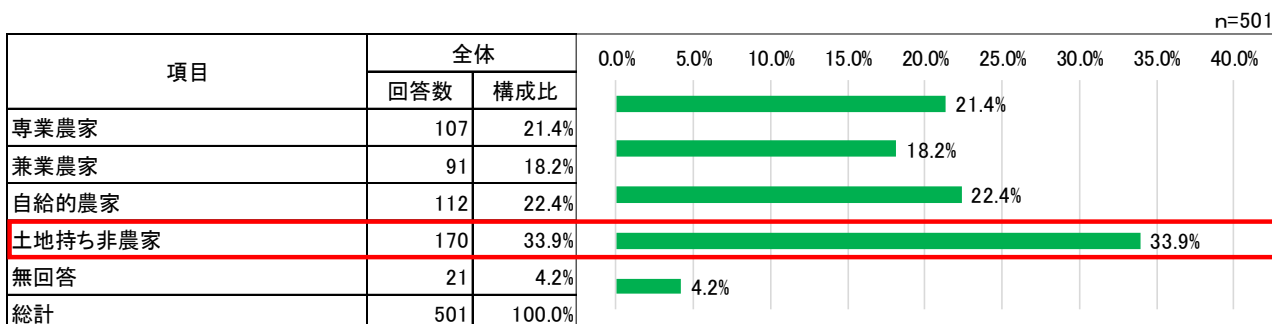
(3) 家族構成

家族構成は、親子(2世代)が34.5%と最も多い。



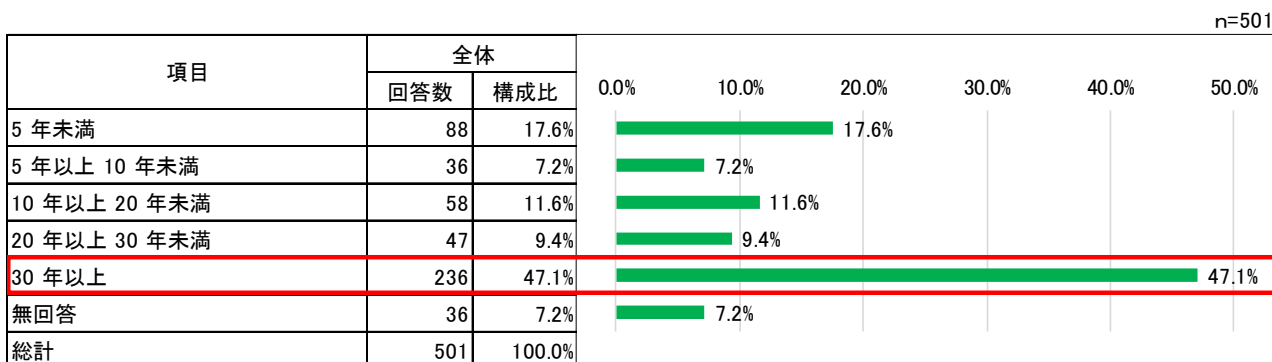
(4) 農家形態

農家形態は、土地持ち非農家が33.9%と最も多く、次いで自給的農家が22.4%である。



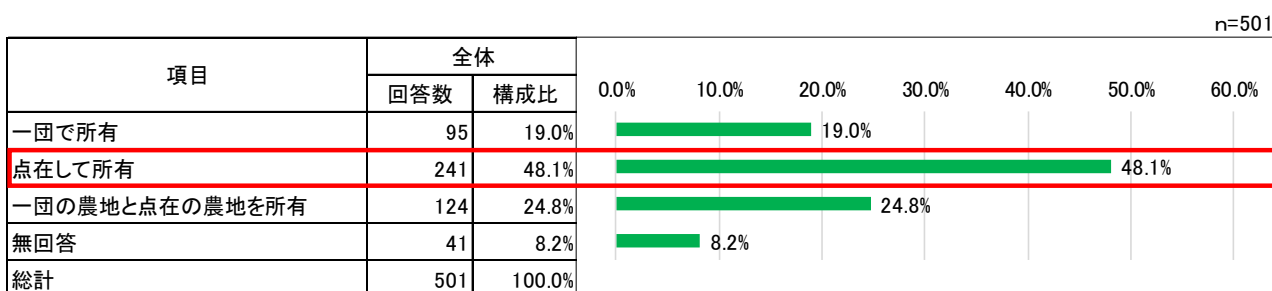
(5) 農家歴

農家歴は、30年以上が47.1%と最も多い。



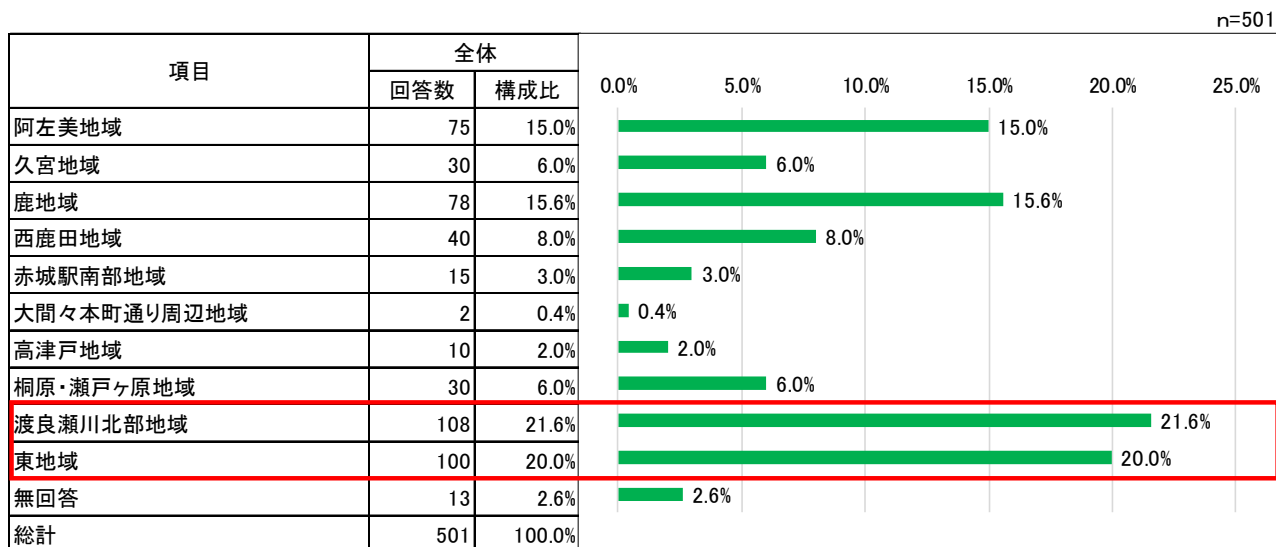
(6) 農地の所有形態

農地の所有形態は、点在して所有が48.1%と最も多い。



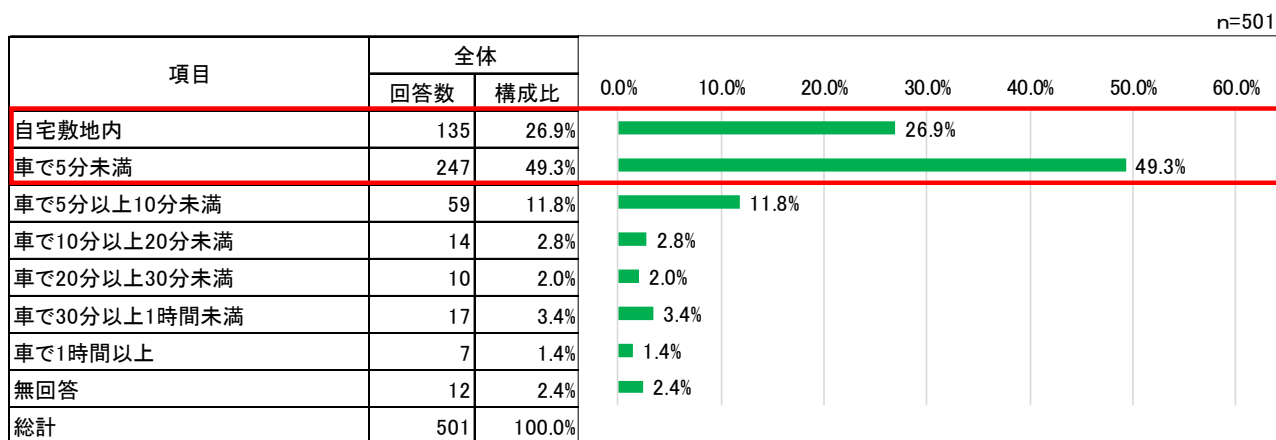
(7) 所有農地の地域

所有農地の地域は、渡良瀬川北部が21.6%と最も多く、次いで東地域が20.0%である。



(8) 自宅から農地までの距離

自宅から農地までの距離は、車で5分が49.3%と最も多く、次いで自宅敷地内が26.9%である。



第3章 調査結果の分析

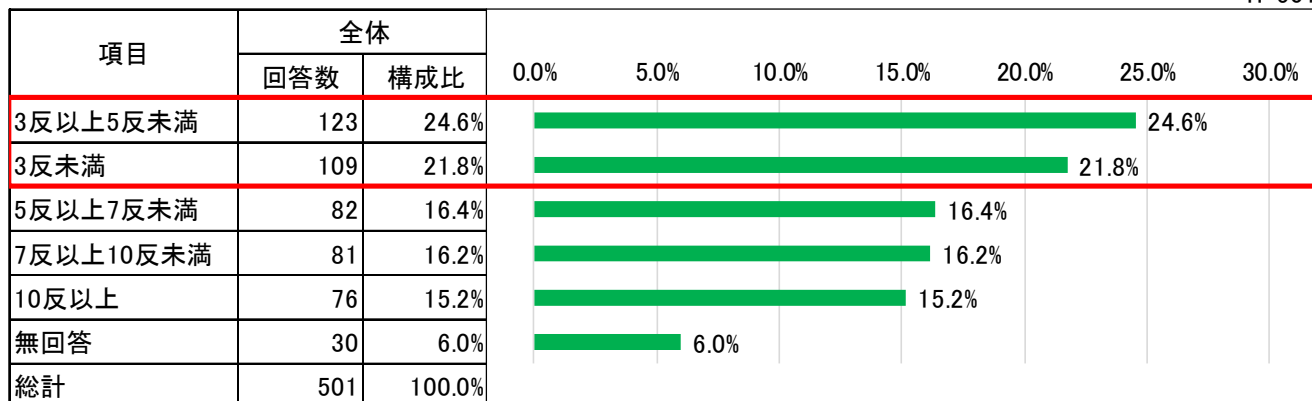
1 現在の農地の活用状況について

(1) 所有農地の面積

問2 所有している農地(耕作していない土地を含む)の面積はどれに該当しますか。(1つ回答)

3反以上5反未満が24.6%と最も多く、次いで3反未満が21.8%となっている。

n=501















(2) 活用状況

問3 現在の農地の活用状況はどれに該当しますか。(1つ回答)

自分で耕作している農地と耕作していない農地があるが29.3%と最も多い。

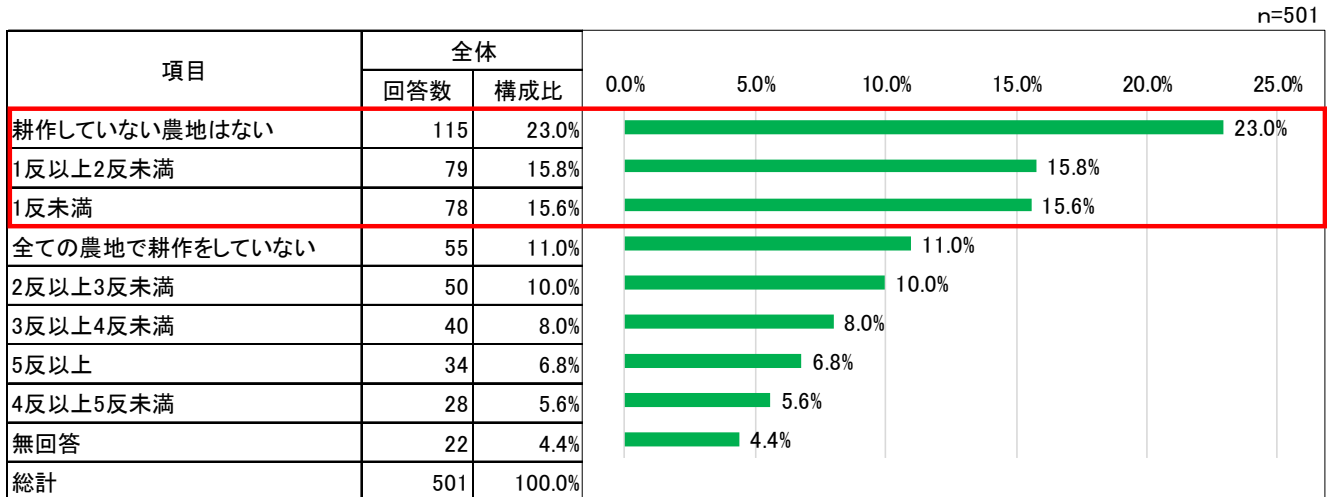
n=501

項目	全体		0.0%	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%
	回答数	構成比							
自分で耕作している農地と耕作していない農地がある	147	29.3%							
全ての農地を自分で耕作している	81	16.2%							
一部を貸しており、それ以外は自分で耕作している農地と耕作していない農地がある	59	11.8%							
全ての農地で耕作をしていない	59	11.8%							
一部を貸しており、それ以外は自分で耕作している	41	8.2%							
一部を貸しており、それ以外は全て耕作していない農地である	28	5.6%							
大半を貸しており、それ以外は自分で耕作している	24	4.8%							
全ての農地を貸している	18	3.6%							
大半を貸しており、それ以外は自分で耕作している農地と耕作していない農地がある	17	3.4%							
大半を貸しており、それ以外は全て耕作していない農地である	8	1.6%							
その他	5	1.0%							
無回答	14	2.8%							
総計	501	100.0%							

(3) 耕作していない農地の面積

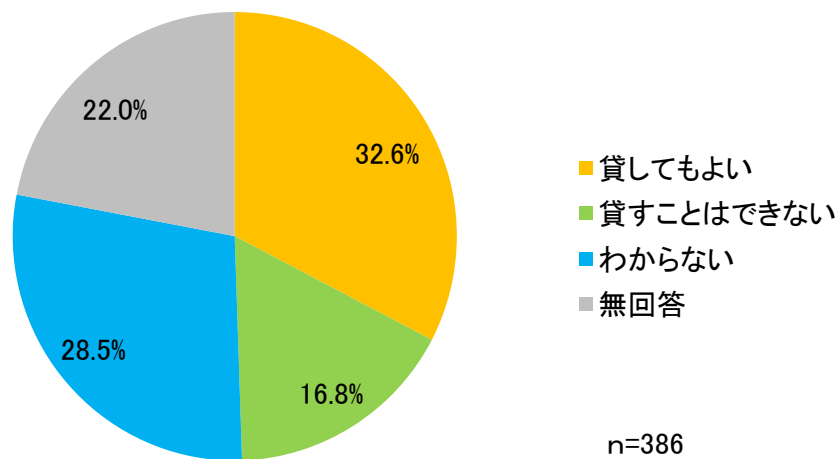
問4 所有している農地のうち耕作していない農地の面積はどれに該当しますか。(1つ回答)

耕作していない農地はないが23.0%と最も多く、次いで1反以上2反未満が15.8%、1反未満が15.6%となっている。



問5 「耕作していない農地はない」以外を選んだ方で、耕作していない農地を貸すことについてどれに該当しますか。(1つ回答)

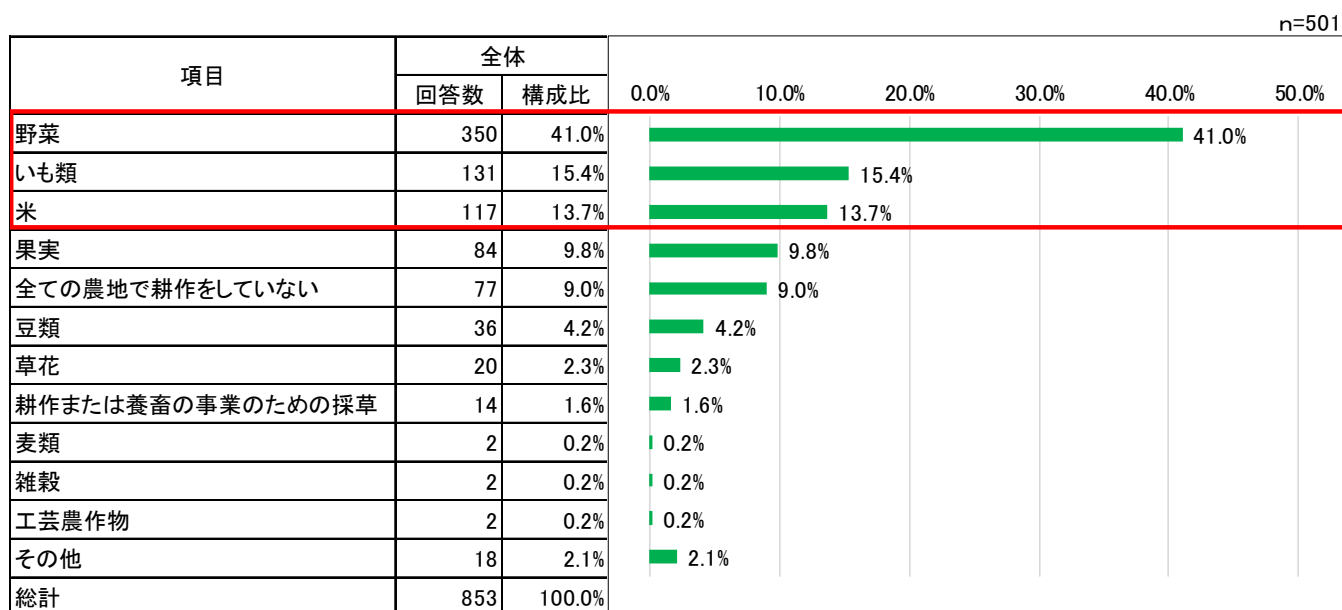
貸してもよいが32.6%と最も多い。



(4) 耕作している農作物について

問6 主に耕作している農作物としてどれが該当しますか。(3つ回答)

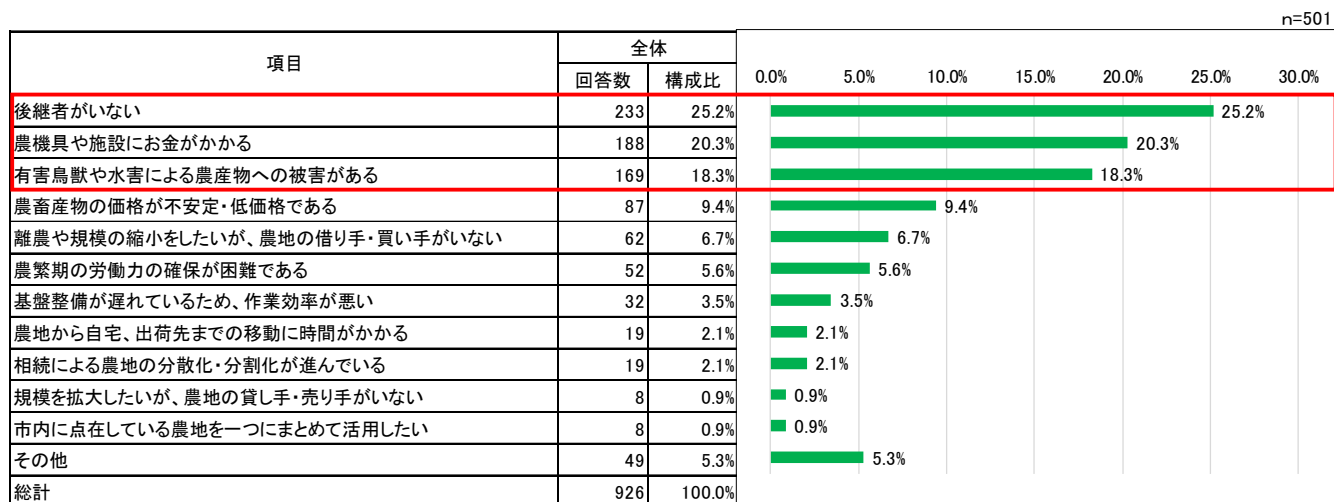
野菜が41.0%と最も多く、次いでいも類が15.4%、米が13.7%となっている。



(5) 農地を活用する中で困っていること

問7 農地を活用していく中での困りごととしてどれが該当しますか。(3つ回答)

後継者がいないが25.2%と最も多く、次いで農機具や施設にお金がかかるが20.3%、有害鳥獣や水害による農作物への被害があるが18.3%となっている。



2 将来の農地の活用意向について

(1) 所有農地の面積

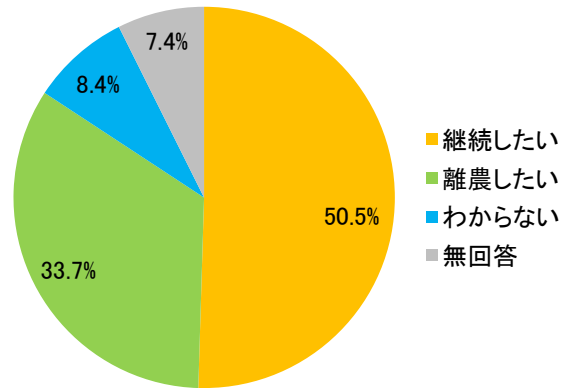
問8 今後の農業の継続意向についてどれに該当しますか。(1つ回答)

また、農地の活用意向・離農したい理由はどれに該当しますか。(1つ回答)

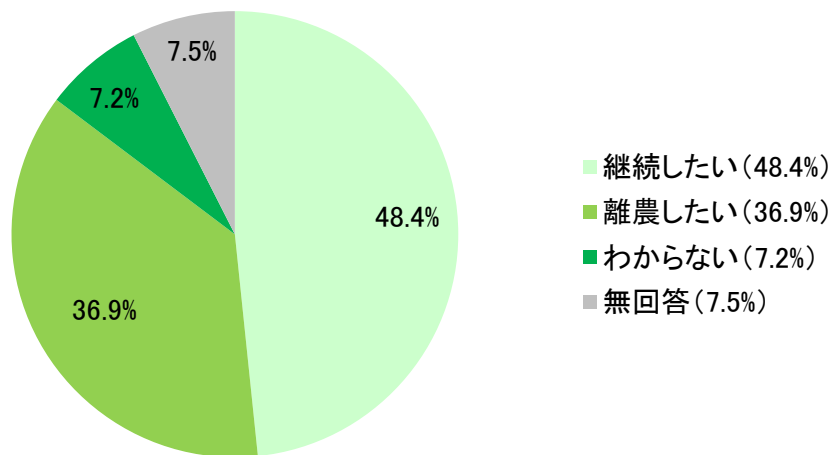
継続したいが50.5%と最も多く、次いで離農したいが33.7%、わからないが8.4%となっている。

n=501

項目	全体	
	回答数	構成比
継続したい	253	50.5%
離農したい	169	33.7%
わからない	42	8.4%
無回答	37	7.4%
総計	501	100.0%



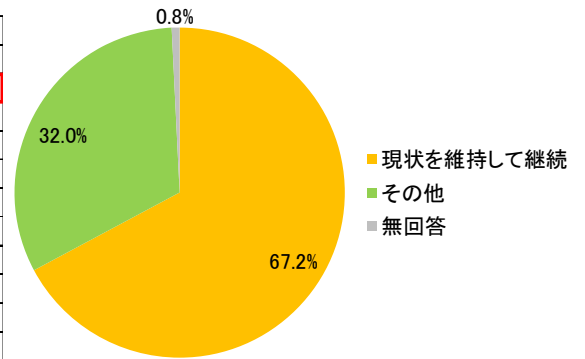
また、60歳代、70歳以上に絞って調査結果をまとめると、継続したいが48.4%と最も多く、次いで離農したいが36.9%、わからないが7.2%となっている。



(A) 継続したい

継続したい理由として、現状を維持して継続が67.2%と最も多い。

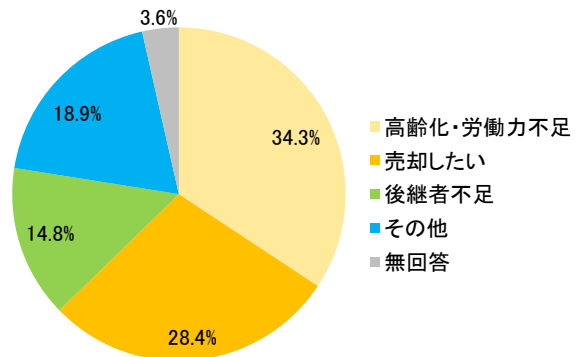
項目	全体 n=253	
	回答数	構成比
現状を維持して継続	170	67.2%
農地の一部を貸して規模を縮小して継続	33	13.0%
新しく農地を増やし、規模を拡大して継続	13	5.1%
点在して所有している農地のうち自宅から距離のある農地を転用し、規模を縮小して継続	10	4.0%
農作業を委託し、農地として維持	8	3.2%
一回で所有している農地の一部を転用し、規模を縮小して継続	4	1.6%
点在して所有している農地のうち自宅に近い農地を転用し、規模を縮小して継続	4	1.6%
点在している農地を集約して継続	1	0.4%
その他	8	3.2%
無回答	2	0.8%
総計	253	100.0%



(B) 離農したい

離農したい理由として、高齢化・労働力不足が34.3%と最も多く、次いで売却したいが28.4%、後継者不足が14.8%となっている。

項目	全体 n=169	
	回答数	構成比
高齢化・労働力不足	58	34.3%
売却したい	48	28.4%
後継者不足	25	14.8%
土地条件が悪い	12	7.1%
鳥獣被害や水害が多い	10	5.9%
機械・設備の老朽化	1	0.6%
転居を予定している	1	0.6%
すべての農地の転用を予定している	1	0.6%
その他	7	4.1%
無回答	6	3.6%
総計	169	100.0%



(C) わからない

わからないと回答した42人のうち、理由が記載されている20人については巻末資料に掲載する。

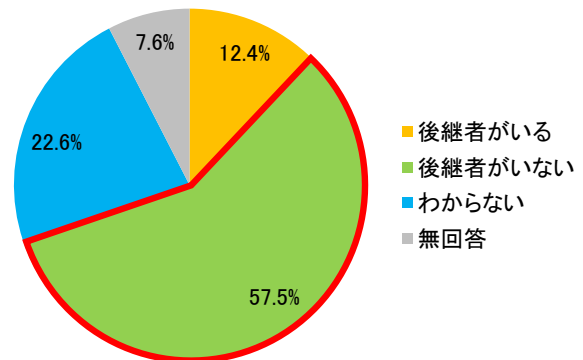
(2) 後継者の有無

問9 農業経営の後継者の有無についてどれが該当しますか。(1つ回答)

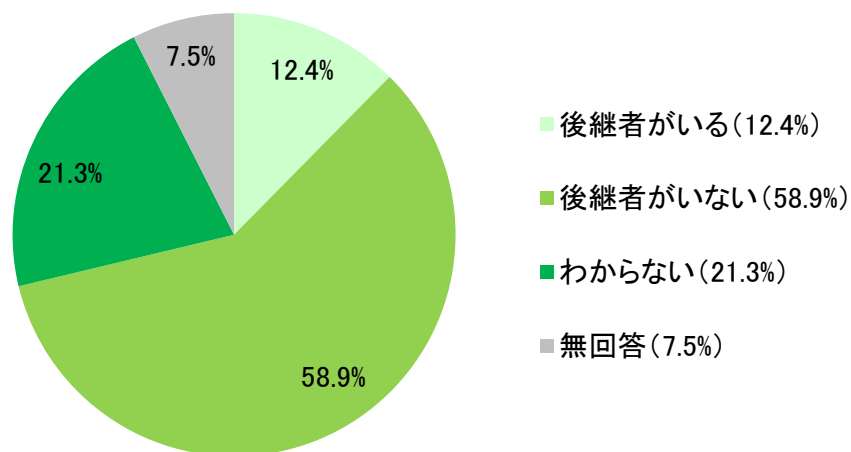
後継者がいないが57.5%と最も多い。

n=501

項目	全体	
	回答数	構成比
後継者がいる	62	12.4%
後継者がいない	288	57.5%
わからない	113	22.6%
無回答	38	7.6%
総計	501	100.0%



また、60歳代、70歳以上に絞って調査結果をまとめると、後継者がいないが58.9%と最も高い。



卷末資料

問8 理由一覽…………… P. 14

問10 意見・要望…………… P. 15

問8 わからない理由

分類1	回答	農家形態	農家歴
01 土地利用	収入源としての活用はしていない為、現状維持で	4 土地持ち非農家	15年未満
01 土地利用	すでに離農して1軒分の野菜を作る程度	4 土地持ち非農家	15年未満
01 土地利用	祖先が住んだ土地と考えると売却は最後の手段と考えるが、年齢からすると3~5ねんは活用したいと思う一方で社会が助かる事業があれば貸してもいい	4 土地持ち非農家	15年未満
01 土地利用	1人で耕作しているが、高齢のため将来は分からない	4 土地持ち非農家	25年以上 10年未満
01 土地利用	現在のままで相続したい	4 土地持ち非農家	530年以上
01 土地利用	今後3年くらいは家庭菜園のような形で使用できると思うが、その後は分からない	4 土地持ち非農家	
01 土地利用	売却はしたくないが上手に利用したい	4 土地持ち非農家	
02 災害	獣害がひどく、採算がとれない	4 土地持ち非農家	420年以上 30年未満
03 人材	若者が東町に残らないため今後どうするか決めることが非常に難しい	3 自給的農家	530年以上
03 人材	名義人死亡のためすぐに結論が出せない。賃貸として利用してもらえ人がいればと考えているが	4 土地持ち非農家	15年未満
03 人材	農業する人がいない	4 土地持ち非農家	
04 その他	先が見えない	3 自給的農家	530年以上
04 その他	現時点ではわからない	3 自給的農家	530年以上
04 その他	売りたい	4 土地持ち非農家	15年未満
04 その他	わからない	4 土地持ち非農家	15年未満
04 その他	先の事は未定	4 土地持ち非農家	15年未満
04 その他	多分誰も何も作れないと思う	4 土地持ち非農家	25年以上 10年未満
04 その他	できるかぎりやりたい	4 土地持ち非農家	25年以上 10年未満
04 その他	決めかねている。	4 土地持ち非農家	25年以上 10年未満
04 その他	離農している	4 土地持ち非農家	530年以上

問10 意見・要望(一部抜粋)

分類1	回答	農家形態	農家歴
01 土地利用	飼料畑は拡大していきたい意向はあるが近隣住民の理解が得られるか不安	1 専業農家	310年以上20年未満
01 土地利用	近所にはサラリーマンを定年退職後に米や野菜を栽培し収入を得ている人がいる。私の息子も将来はそんなことができるように期待して農地を維持していきたいと思う	1 専業農家	530年以上
01 土地利用	72歳なのでできる範囲で農業はしたい。そのあとは、農地は売却したい	1 専業農家	530年以上
01 土地利用	バイパスや歩道整備のため、農地を提供した分、新たな農地を取得する意向があるが、農地が離れてしまうのが効率の面から懸念している。近隣の農地が利用できるなら、その情報が知りたい。(農業公社の耕作施策地等の地図をネットで見たが、規模が小さすぎたり、遠方すぎるため周囲の農家やその親族の貸与や売買の意向があれば知りたい)	1 専業農家	530年以上
01 土地利用	原木椎茸栽培を辞めたあと、賃貸したい	2 兼業農家	25年以上10年未満
01 土地利用	一部土地条件が悪くこの部分は売却したい	2 兼業農家	420年以上30年未満
01 土地利用	耕作していない土地から雑草の種や根の侵入や虫の移動が多い	2 兼業農家	530年以上
01 土地利用	子供たちがどの道に変わるかわからないので、農地として活用していきたい	2 兼業農家	530年以上
01 土地利用	高齢になり、後継者もなく、今は一部を貸しているが、その方も高齢になれば売却を考えている。この辺ではこのような農地所有者が多いかと思われる。条件の悪い農地については、活用は難しいと思われる	2 兼業農家	530年以上
01 土地利用	自分が動けるうちは手の届く範囲で荒地にしなように努めるが、その後については不安である	3 自給的農家	15年未満
01 土地利用	後継者がいるといっても、会社員の息子一人なので耕作するのが困難であり、土地条件が悪いので処分したい	3 自給的農家	310年以上20年未満
01 土地利用	水田を一件であげると気後れるので大変。高齢者の為	3 自給的農家	310年以上20年未満
01 土地利用	周りに専業の人がいるので、畑の維持に労力がかかるので体力的に難しい。将来的にどうしたらよいか考えている	3 自給的農家	310年以上20年未満
01 土地利用	高齢者で農業を続ける意欲がない	3 自給的農家	420年以上30年未満
01 土地利用	農地解放の土地なので、農地を転用しても場所が悪く売却できないと思う	3 自給的農家	420年以上30年未満
01 土地利用	祖先が開拓した土地や買い取った土地で山林の下にある土地など荒れてしまい、どうしたらよいかわからない。誰も使ってくれる人はいないし、欲しが人もいない	3 自給的農家	530年以上
01 土地利用	耕作放棄地が多くなっていく傾向が考えられる。これらをどう対抗していくべきか考えて行かねばと思う	3 自給的農家	530年以上
01 土地利用	高齢になり自分の所もやがて耕作できなくなるが、近くに住んでいる息子も休日などで手伝ってくれるが、今のまますべて引き継ぐことができるか不明。近くの田畑でも不耕作地が増加しているが、原因として後継者がいないこと、相続などにより不在地主となった土地も増加している	3 自給的農家	530年以上
01 土地利用	今後東地区では耕作放棄地が増加すると思われる。	3 自給的農家	530年以上
01 土地利用	農業する気がなく、土地を処分して農家を辞めたい	4 土地持ち非農家	15年未満
01 土地利用	売却したい	4 土地持ち非農家	15年未満
01 土地利用	生前姑夫婦が30数年前に耕作していたが、死亡してから誰も耕作せず、時の流れるままの荒地になっている。子供たちも都会に出て戻ってくる予定はないので、今後の予定もない	4 土地持ち非農家	15年未満
01 土地利用	農業経験がないので農業はしない。子、孫がいるので後の事は子、孫に託したいと思う。公共用地又は公共施設等(農業は除く)に賃貸、または売却しても良いと思う	4 土地持ち非農家	15年未満
01 土地利用	高齢化、後継者不足のため近くの田や畑が利用されず草だらけになっているところが目立つ。農業希望する人、団体でかりあげて農地として有効利用してほしい。太陽光発電や工場地になってしまうのも困る。アンケート記入者は農地について経験不足のためとまどっている。安心して相談できる窓口が欲しい	4 土地持ち非農家	15年未満
01 土地利用	地元住民農家で身元の分かる人であれば貸しても良い。短期契約による更新、継続も可	4 土地持ち非農家	15年未満
01 土地利用	産業化して進めようとしてもお金がかかる。今から始めても初期費用がかかる。資金援助の術がない。産業化することができればもっと普及すると思う	4 土地持ち非農家	15年未満
01 土地利用	市に売却を相談し、市も買い上げ意向を示したが、コロナ問題が発生した後、市から一切の連絡がない。このままだと、他への売却を検討する	4 土地持ち非農家	15年未満
01 土地利用	市で買い上げ、太陽光発電用地にしてほしい	4 土地持ち非農家	25年以上10年未満
01 土地利用	引き取り手がいない	4 土地持ち非農家	310年以上20年未満
01 土地利用	人手不足で荒れてしまった斜面で小面積の多い山間の土地では再利用するメリットがない。借り手がない。機械化ができない。集約利用できない。獣害がひどい	4 土地持ち非農家	310年以上20年未満
01 土地利用	現在所有している農地のうち耕作地が100坪で、野菜などを作っている。その他の不耕作地の年間の除草作業が大変になっている。できれば売却か貸地にしたい	4 土地持ち非農家	310年以上20年未満
01 土地利用	価値のない農地なので売却を考えている	4 土地持ち非農家	310年以上20年未満
01 土地利用	高齢となり耕作が大変になっている。	4 土地持ち非農家	310年以上20年未満
01 土地利用	田を太陽光発電への売却を予定している	4 土地持ち非農家	420年以上30年未満
01 土地利用	85歳以上の為農作業はできない	4 土地持ち非農家	530年以上
01 土地利用	農地を転用し、売却したい。農地法の転用を緩和してほしい	4 土地持ち非農家	530年以上
01 土地利用	祖先が苦勞して残した土地だから、大事に守っていききたいが高齢になり耕作できないのが残念	4 土地持ち非農家	530年以上

問 10 意見・要望(一部抜粋)

分類1	回答	業種	創業年数
01 土地利用	現在は全部の農地を貸しているが将来は子供たちに託したい	4 土地持ち非農家	
01 土地利用	管理できないので荒れてしまっている。売却したい	4 土地持ち非農家	
01 土地利用	後継者はいない。農地を利用してほしい	4 土地持ち非農家	
01 土地利用	兼業の形で耕作を続けているが、今後、畑の一部を手放すことも考えている(一部転用済)。最低限、近所の迷惑にならないよう除草は続けていきたいと思う		
02 道路	農地をいい状態に維持するために道路整備をお願いしたい。すでに要請してあるがなかなか実行されない	3 自給的農家	15年未満
02 道路	今のうちに道路整備を進めるべき。住宅化が進めば難しくなる	4 土地持ち非農家	15年未満
03 災害	有害鳥獣による耕作不能になっている農地が多くある。年を取り、後継者がいないので山林化している。農地から山林への地目変更がしたい	1 専業農家	310年以上 20年未満
03 災害	農地が点在していることやイノシシや鹿の被害が多く対策に苦労している	1 専業農家	530年以上
03 災害	農地には直接関係ないが、有害鳥獣(ハクビシン、イノシシ等)の被害があるので農林課の方で駆除対策をお願いしたい	1 専業農家	530年以上
03 災害	有害獣を近づけない対策がほしい。電気柵などを推進できないか	2 兼業農家	310年以上 20年未満
03 災害	鳥獣被害が拡大している現状で光を見た意見は持てない	2 兼業農家	530年以上
03 災害	鳥獣被害が全て	2 兼業農家	530年以上
03 災害	有害鳥獣(サル)による農産物への被害対策をお願いしたい	2 兼業農家	530年以上
03 災害	イノシシ駆除希望	3 自給的農家	530年以上
03 災害	山間部では鳥獣被害も多く、農地を維持していくことも困難な状況となりつつある。今後、農業規模の縮小の際に、農地転用が容易にできるように配慮をお願いしたい。耕作放棄農地の復帰はできない	3 自給的農家	530年以上
03 災害	現行行政が行っている有害鳥獣対策は全く効果がない印象。狼とか放ってほしい。	3 自給的農家	530年以上
03 災害	現在は農地を貸しているが、借人が老いて離農するとき、子供たちに耕作してほしいと思っているが、従事してくれるかどうかかわからない。鳥獣被害も多いので、その対策も考えていかなければならない	4 土地持ち非農家	15年未満
03 災害	何年も前から分かっていたが、何もすることができず本当に残念。未来の子供達に荒地を残すことになるので心配。何を作っても鳥獣被害にあい、果樹を植えても同じ。もう農地はあきらめた。これからも何も変わらないと思う	4 土地持ち非農家	15年未満
03 災害	自分の家で食べるものを作ろうとしても、すべて獣被害で作れない。また、被害対策の費用も少額の費用では充分な対策ができず、それに対する対価が期待できず無駄	4 土地持ち非農家	15年未満
03 災害	山間地のため、有害鳥獣による被害防止のため、手がかかる	4 土地持ち非農家	25年以上 10年未満
03 災害	鳥獣対策を積極的にしてほしい。休耕田の活用等の行政指導を!	4 土地持ち非農家	310年以上 20年未満
03 災害	野生動物の被害がなくなれば、農業はできない。昔のようにならなければ、機械も使えず。荒れるばかり。	4 土地持ち非農家	530年以上
03 災害	急傾斜を切り開いた農地で、農地というものの、筆数が多く、面積は小さい。道は狭く機械が入らない。猪、鹿、猿等に荒らされ、耕作不能原野が点在している状態。維持管理できず、名目だけの農地が多い。困っている状態	4 土地持ち非農家	
04 都市計画	工業団地でも来てもらいたい	1 専業農家	530年以上
04 都市計画	最近住宅が増えてきて農業をするのが困難になった	2 兼業農家	310年以上 20年未満
04 都市計画	線引きはしないでほしい	2 兼業農家	530年以上
04 都市計画	みどり市の都市計画マスタープラン策定にあたり農地所有者の意向調査言う事でアンケート調査を行うのだが現状では、都市計画地域と農振地域がオーバーラップし宅地が散在し都市計画の調整区域、農振農用地の設定が難しい状況中で、どの様にゾーニングしていくのかが非常に難しいのではないかと。都市計画マスタープランの策定及び今後のみどり市の将来を考えた場合、少子化対策をどの様にしたら良いかが最大の問題ではないか。今までのアンケート調査などにおいて行われた有る方向に誘導する様な一部のアンケート調査ではなく、多方面からのアプローチするアンケートでなければ方向性は出ないのでは無いかと考える。また、みどり市都市計画マスタープランは、みどり市でなければ対応できない個性のあるマスタープランを策定してもらいたい。	3 自給的農家	420年以上 30年未満
04 都市計画	地域(住宅地)によって農地転用を簡単にしてほしい	3 自給的農家	530年以上
04 都市計画	神梅地区の農地の区画整理を行ってほしい		530年以上
05 行政	農地法の改正。除外、転用等の申請に時間がかかりすぎる。後継者が不足し、遊休農地が散見している。農地を有効活用するためにも、農地法を見直しスピーディーな取り扱いができるように改善すべきである	1 専業農家	310年以上 20年未満
05 行政	水田の畑策利用時に土壌改良及び排水面での補助又は何らかの取り組み	1 専業農家	420年以上 30年未満
05 行政	将来農地を耕作できなくなった時、すぐに町が対応して借り手を探してくれるか不安だ	1 専業農家	530年以上
05 行政	当地区も日本の現状と同じで、若年の者がいない為、後継者になりうる人はいない。耕作放棄地が増加する一方。法人化による規模拡大と言っても、地形に制約があるし、よほど特殊な作物でも作らないと投資回収がままならないように思う。品質で特に良くなくても、安価に作れる外国産が入ってくるのでなおさら競争力の点で劣る。市役所としても本腰を入れて長期的に展望の開ける施策を早急に行った方がよい。	2 兼業農家	25年以上 10年未満
05 行政	東地域は高齢化率 50%以上である。獣害被害が年々多くなり、遊休地が増加している。この地域での集团的認識の有る団体に対し、市は補助していない。具体的には、コンバイン購入。弱い団体に対して光を当てるのが税金の使われ方。配慮してほしい。	2 兼業農家	530年以上
05 行政	収益のある農業をめざしている為に、作物の販売方法、例えば農産物直売所または JA に。小規模でも作れる作物等提案ほしい	2 兼業農家	530年以上

問10 意見・要望

分類1	回答	業種	創業年数
05 行政	小夜戸は日当たりが悪く、作物を作るのが大変。すでに花桃があり観光地として生き残りたい。畑を休憩場にして飲み物や田舎まんじゅうを作り、年をとっても畑をきれいに維持できる位の収入を得たい。調理場と少しの休憩場を作ったが、トイレはまだ。細長い小夜戸を花桃街道にしたい。東町全体を観光に力を入れてもらいたい	2 兼業農家	530年以上
05 行政	農地という事ではないが、塩原バイパス(国道122号)の完成に伴い、地元としては車の交通量が増えることによる騒音や排ガス、交通渋滞のようなデメリットとなるが多くなると感じている住民が大部分だと思う。そこで、地元住民にメリットとなる施策を行政の力で考え、実施してもらいたい。例えば、地元農家の人が参加できる農産物直売所の設置や、地元食材を使ったレストランの開業など、地元住民が参加できると良いと思う	3 自給的農家	530年以上
05 行政	利益を生むことができる土地ならば相続してくれると思うので、地域の活性化に繋がる。土地を持っている人、地域で生活している人それぞれに利益のある提案があれば良いと思う	4 土地持ち非農家	15年未満
05 行政	日本は自給率が低い。一方、農業の企業家や事業化に関してはJAが邪魔し、これを支援する政治家もいる。農業化を育てるシステムや政治家を考えないと外国人に土地ごと徐々に購入されて良い文化の日本がなくなる心配がある。もちろん農業だけではなく、このまま人口が減れば市の仕事も30%は外人サービスのためという社会が見えてくる	4 土地持ち非農家	15年未満
05 行政	みどり市行政は、壮年新規就農には積極的ではない事が判明しましたので、独自に動いて見ようと思うようになりました。	4 土地持ち非農家	15年未満
05 行政	転用を簡素化してほしい	4 土地持ち非農家	420年以上 30年未満
05 行政	農地は貸したいので借りたい人とのマッチングをお願いしたい。農業委員会が機能していない	4 土地持ち非農家	530年以上
05 行政	休耕地を市が買い取ったり、市が希望者へ売却や貸し出す制度を作してほしい	4 土地持ち非農家	
06 周辺環境	宅地が増えて先行きが不安	1 専業農家	530年以上
06 周辺環境	最近耕作放棄地に太陽光発電所が作られている。景観、治水の心配はあるが仕方がない事かもしれないが残念	3 自給的農家	420年以上 30年未満
06 周辺環境	育った木々の伐採を支援していただきたい	3 自給的農家	420年以上 30年未満
06 周辺環境	周辺に竹が侵入し、日照条件が悪化している。竹林の整備ができると良い	3 自給的農家	530年以上
07 アンケート	このアンケートは家庭菜園だけの家には不要に思う	3 自給的農家	310年以上 20年未満
08 その他	再生エネルギーと農業のリンクの推進を希望	1 専業農家	420年以上 30年未満
08 その他	後継者に経営委譲しているの、その立場で回答している	1 専業農家	420年以上 30年未満
08 その他	宅地化が進む中で農業はそれを維持するだけでなく、農地や施設の住宅とのあつれきや、理解のなさに悩んでいる。今後農業経営は増々やりづらくなっていくと思う。はっきり言って、道路の端にトラックを駐車して仕事をしていた時に、110番通報されたり、道路の脇に少し草が出ていた時に農業委員会に通報されたり、農家として嫌がらせとしか思えない仕打ちを受けていて肩身が狭い	1 専業農家	530年以上
08 その他	なし	2 兼業農家	310年以上 20年未満
08 その他	長男に相続し、しっかり管理してくれているので安心。農業は大切	2 兼業農家	530年以上
08 その他	耕作上不便な地形であり、借り手としてもこの足をふんでしまう	2 兼業農家	530年以上
08 その他	老後の趣味で、相続した農地で野菜を作っている。結構な種類を作って、自己満足している。今は夫が一人で耕作しているが、自分が退職した後に少しでも販売できて、種や肥料代の足しになればと思って、電気柵や果樹等の準備を設置している状況。退職後に、村内で野菜作りなどを楽しみながら、住み続けたいと思っているが、物づくりのアドバイスや販売場所など知りたい	3 自給的農家	310年以上 20年未満
08 その他	現代社会では車が入れない土地は何の利用価値もない土地。30年前に見切りをつけて引越した。祖先から受け継いだ土地は現在は負担になっている	4 土地持ち非農家	15年未満
08 その他	畑と接している指導に無断で入ってくる車や人が多い。庭と続いているので通過して道に出る。畑にごみを投げる(カンやビン)のもやめてほしい	4 土地持ち非農家	15年未満
08 その他	現況大間々町奥地、人家なし	4 土地持ち非農家	25年以上 10年未満
08 その他	車が使えない。	4 土地持ち非農家	25年以上 10年未満
08 その他	相続で調停中	4 土地持ち非農家	420年以上 30年未満
08 その他	自宅に隣接し、4反ほどの農地があり現在1/3強を家庭菜園として使っている。空いている土地は草地や雑木となっている。現状は不便はないが相続については不安あり	4 土地持ち非農家	530年以上
08 その他	私の家もそうですが、今まで一生懸命耕作してきた方が高齢で耕作を辞めてしまい家族も別の市町村に移り住んでいて耕作はやらないという家は多いと思います。そういう状況下でありながら毎年賦課金を納めています。地区の理事長に脱退させてもらいたい旨をお話したら、基本脱退は出来ない、もし脱退したいのであれば耕作地の広さに応じた金額を支払えばいいですよ。その金額が払えないのであれば耕作しようがしまいが賦課金は半永久的に払い続けてもらいます。と言われてしまい、とりあえず引き下がりました。このような悩みを抱えたまま仕方なく毎年賦課金を支払っている家は沢山いると思います。農地法にはお金のことはうたってありません。おそらく地区の土地改良区でのそれぞれの取決めでそうなっているのだと思います。どうか耕作を長年やっていない家からの賦課金等を徴収するのは辞めていただき、脱退もお金を納めなくてもすむよう簡単な手続きで済むよう検討をお願いいたします。	4 土地持ち非農家	530年以上
08 その他	自分たちの野菜だけ		530年以上
08 その他	主人が亡くなり、自分の名義になり、どこにどれだけあるか分からない。放棄したい		